

SIR 企業レポート

2016年10月27日

株式会社 enish (東証一部 : 3667)



事業概況

- ・ソーシャルアプリ・ゲームの企画、開発・運営事業者。
- ・既存アプリ（ブラウザゲーム）については、経営シミュレーションゲームが主力。「ぼくのレストラン 2」等ライフタイム・バリューの長いゲームを主力とし、女性層の獲得に強み。
- ・当期1月にリリースしたネイティブアプリ「12 オーディンズ」は、150万ダウンロードを突破し、セールスランキングもTOP35位を記録。順調な推移。
- ・前期より続いた売上の減少傾向に歯止め。第3四半期売上高は第2四半期比39百万円増の1,276百万円、営業損失も同21百万円良化の96百万円となる。
- ・第4四半期においては、ネイティブゲームの機能強化や広告・コラボの連携強化と効率的運用により、四半期黒字化を目指している。

黒字化に向け潮目に変化 (2016年度3Qレビュー)

《概況》 2016年度3Q損益計算書

単位：百万円

	FY16 3Q	FY16 2Q	前四半期比	FY15 3Q	前年同期比
売上高	1,276	1,237	+3.2%	1,312	▲2.7%
売上原価	1,063	1,056	+0.6%	1,279	▲16.9%
売上総利益	213	180	+18.3%	33	+542.6%
販売管理費	309	297	+4.1%	199	+55.6%
(うち広告宣伝費)	182	171	+6.3%	23	+688.7%
営業利益	-96	-117	-	-165	-
営業利益率	▲7.5%	▲9.5%	-	▲12.6%	-
経常利益	-126	-123	-	-171	-
当期純利益	-127	-194	-	-170	-

決算概要：増収・増益

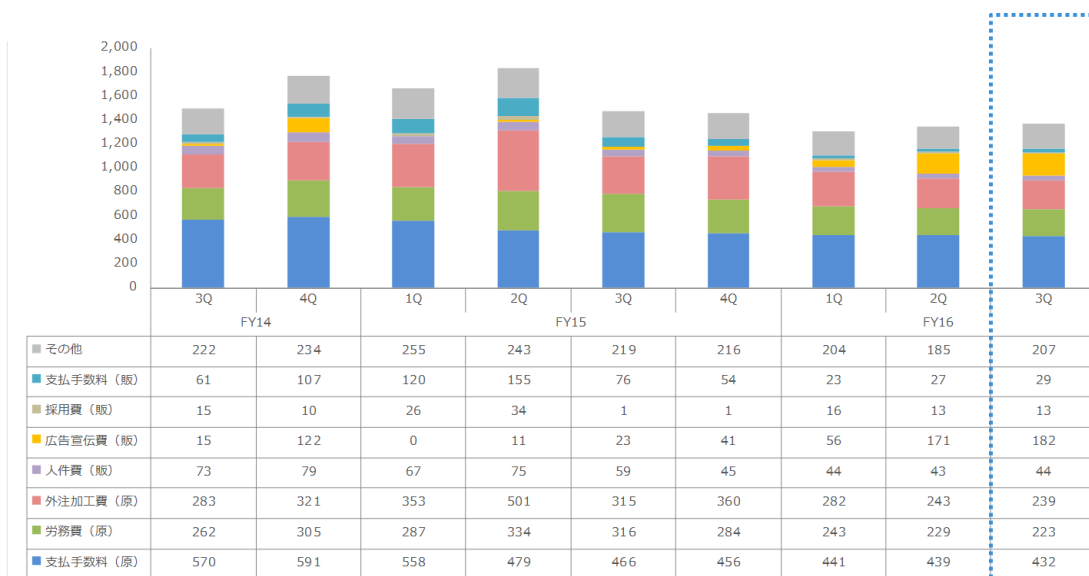
第3四半期（7月～9月）の状況

（売上高）当四半期では、上半期までに収益性の低い既存ブラウザゲームを閉鎖し 5 タイトルに集約した影響もあり、ブラウザゲームの売上月次通減率は 1.7%となったものの、「12 オーディンズ」の売上が好調に推移し、**2015年第1四半期以降続いていた売上の減少傾向に歯止め**がかかった。

（原価・販管費）引き続き抑制されたコストコントロールが実施されており、広告宣伝費控除後の総経費は 1,191 百万円（月 400 百万円程度）に抑えられている。

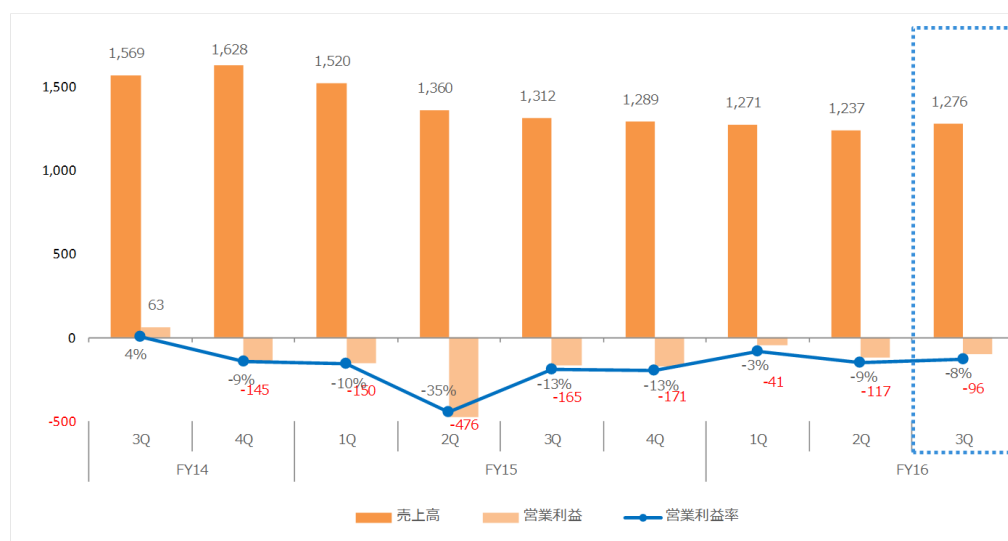
主要経費の四半期推移

（単位；百万円）



（営業利益）当四半期では、広告宣伝費を 182 百万円計上。営業利益で△96 百万円であったことから、当期は事業戦略的観点から営業損失計上を選んだと推測される。

売上高・営業利益の四半期推移



事業トピックス①：「12 オーディンズ」が好調を維持

リリースから9か月で150万ダウンロードを達成し、「鋼の錬金術師」との大型コラボに続き、「ヴァルキリープロファイル」とのコラボも今冬実施される予定。セールスランキングも10月15日に35位（iOS）を記録するなど、セールスランキングの常連（TOP200）となっており、安定的な収益源となりつつある。

ダウンロード数



事業トピックス②：AR 技術カンパニーKudan との業務提携

今後急速な市場成長が見込まれるAR（拡張現実）で独自の技術を発展させているKudan株式会社と業務提携を発表。

Kudan Engineはマーカレス、SLAM（Simultaneous Localization and Mapping「スラム」）を実装し、即時に画像認識・周囲の環境を追加して認識する拡張認識にも対応するなど独自のAR技術を保有している。今後、それぞれの開発・技術力やノウハウを融合し両社の強みを活かすとともに、快適な新しいユーザー体験の創出を目指して、AR技術を活用したサービス、トータルソリューションを共同開発する。

当期の業績に影響は及ぼさないが、今後のゲーム開発等において大きな差別化要因となる可能性が期待でき、当社の今後の成長の布石として位置付けられよう。

《黒字化に向けた課題》

当社の事業黒字化に向けては引き続き、

- ① 既存ブラウザゲームについて、可能な限り追加経費かけずに売上の通減率を維持・縮小すること。
- ② ネイティブアプリについては、12 オーディンズへの戦略的な広告宣伝費投下により売上増を確実に達成すること。

を着実に達成することが課題と考えられる。

SIRは、当社オペレーションの動向を今後とも注意深くレポートしていきたい。

ストラテジック・アイアール・インサイト株式会社

代表取締役社長 関口 裕一

免責事項

- ・本レポートは、ストラテジック・アイアール・インサイト株式会社が、投資家に対して株式投資の参考資料として作成したものであり、特定の証券又は金融商品の売買の推奨、勧誘を目的としたものではありません。
- ・本レポートの記載内容は、一般に入手可能な公開情報および、弊社取材による情報に基づいて作成されたものであり、インサイダー情報の入手およびその使用は禁じられております。本レポート作成に当たり、その情報は正確かつ信頼に足るものと考えておりますが、その正確性が客観的に検証されているものではありません。
- ・本レポートに含まれる情報は、金融市場・商品市況・経済環境等の変動等の理由により最新のものでなくなる可能性があります。また、本レポート内で記載されている、現状および将来的な予測については、弊社が適切と判断した材料に基づく弊社予想であり、実際とは異なることがあります。したがって、将来の数値等について明示または黙示を問わずこれを保証するものではありません。
- ・本レポート内で示す見解は予告なしに変更されることがあり、弊社は本レポート内に含まれる情報および見解を更新する義務を負うものではありません。
- ・弊社は、投資家が本レポートを利用したことまたは本レポートに依拠したことによる、直接・間接の損失や逸失利益および損害を含むいかなる結果についても一切の責任を負うものではありません。
- ・本レポートの著作権はストラテジック・アイアール・インサイト株式会社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

ストラテジック・アイアール・インサイト株式会社